

- ※23 サイクロスポリンA：免疫抑制剤の一種。C型肝炎ウイルスにおいてウイルス複製の阻害作用を有する。
- ※24 プロテアーゼ阻害剤：ウイルスRNAを適切な部分で切断し、ウイルス増殖に寄与しているタンパク（プロテアーゼ等）の合成を阻害する薬剤。C型肝炎ウイルス増殖抑制効果が期待される。
- ※25 非翻訳領域：メッセンジャーRNAのうち、タンパク質情報を有さない領域。
- ※26 ポリメラーゼ阻害剤：ウイルスRNAの転写というウイルス増殖に必要なタンパク（＝ポリメラーゼ）の合成を阻害する薬剤。C型肝炎ウイルス増殖抑制効果が期待される。
- ※27 ジェノミクス解析：新規治療薬の開発を考慮した患者遺伝子と疾患とを関連づける解析。
- ※28 分子標的治療薬：細胞増殖に関わる分子を阻害する治療薬。
- ※29 造影腹部エコー：画像上、病変部を明確化した上で行う腹部エコー（超音波）検査。
- ※30 RVS (Real-time Virtual Sonography)：腹部CT検査と同期・同断面表示を可能とした腹部エコー検査の画像診断技術。肝がんのラジオ波焼灼療法等に利用できる。
- ※31 がん遺伝子：外科的に切除されたがん部から抽出されたDNA。（その異常を評価することから新規治療薬の開発につながる）
- ※32 テーラーメイド治療：個人のタイプ（例えば遺伝子型）に応じて最適な医療を提供する治療。
- ※33 血管新生阻害薬：新生血管による腫瘍への酸素と栄養の供給を阻止し、腫瘍を兵糧攻めにする治療薬。
- ※34 陽子線：放射線の種類。がん等に照射する治療に利用されている。
- ※35 炭素線：放射線の種類（陽子線より粒子が重い）。がん等に照射する治療に利用されている。
- ※36 ウイルスレセプター：ウイルス感染を起こす際の生体側分子。
- ※37 免疫グロブリン：抗原と結合する抗体として働くタンパク質の総称であり、複数の分子種がある。
- ※38 酸化ストレス：体内で生成する活性酸素などにより細胞質や細胞核が障害される状態。病気の進展や発がんに関係する。
- ※39 インスリン抵抗性：血糖値を低下させるためのインスリンは多量に放出されているが、その作用が阻害されている状態。
- ※40 Child-Pugh C：進行した非代償性肝硬変。

① 肝炎治療の現状と治療薬開発の方向性に関するテーマ
肝炎等克服緊急対策研究事業採択課題表

平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度以降 (予定)
肝炎ウイルス等の標準的治療困難例に対する治療法の確立に関する研究							
C型肝炎への肝移植後の免疫抑制法に関する研究							
輸血後肝炎に関する研究							
血液透析施設におけるC型肝炎感染事故防止体制の確立に関する研究							
産科診療におけるC型肝炎の感染リスク低減に関する研究							
C型肝炎ウイルス感染者に対する治療の標準化に関する臨床的研究							
B型及びC型肝炎ウイルスの感染者に対する治療の標準化に関する臨床的研究							
C型肝炎ウイルス等の母子感染防止に関する研究							
B型肝炎の悪化経路・宿主域・遺伝的多様性・感染防止・診断・治療に関する研究							
本邦に於けるE型肝炎の診断・予防・疫学に関する研究							
B型及びC型肝炎ウイルスの新たな感染予防確立のための感染病態解明に関する研究							
生体肝移植後のC型肝炎再発防止を目指したステロイド剤不投与による免疫抑制療法							
肝炎ウイルスにより誘起される炎症性誘発要素及びウイルス増殖に対する人為的制御による肝炎制止							
肝炎ウイルス感染制御を目指したワクチン接種の基盤構築							
non-coding RNAを用いた新たな慢性C型肝炎制御による治療法開発							
ジェノミクス技術を用いたウイルス性肝炎に対する新規診断・治療法の開発							
テーラーメイド治療を目指した肝炎ウイルスアズナールベータース構築に関する研究							
肝炎・肝硬変に対する抗ウイルス剤以外の治療法に関する研究							
データマイニング手法を用いた効果的な治療方法に関する研究							
非アルコール性脂肪性肝疾患の病態解明と診断法、治療法の開発に関する研究							
Claudin-1を標的としたC型肝炎ウイルス感染阻害法の開発とその臨床応用に向けた疫学調査							
リソソーム・ステロイド併用悪性リンパ腫治療中のB型肝炎ウイルス再活性化への対策に関する研究							

②肝硬変治療の現状と治療薬開発の方向性に関するテーマ

平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度以降 (予定)
末期肝硬変に対する治療に関する研究			肝硬変に対する治療に関する研究				
肝硬変における治療方法に関する研究						インターフェロンの抗肝線維化分子機構の解明とその応用 肝発癌抑制を視野に入れた肝硬変の栄養療法のガイドライン作成を目指した総合的研究	

③肝がん治療の現状と治療薬開発の方向性に関するテーマ

平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度以降 (予定)
進行肝がんに対する集学的治療に関する研究							
肝がん患者のQOL向上に関する研究							
肝がんに対する肝移植の有効性とその適応基準の確立に関する研究							
肝炎対策としての肝がんの研究		予後改善を目指した肝臓がん再発に影響を与える因子に関する研究			ウイルス肝炎による肝がんの再発防止メカニズムの解明に関する研究		
既存の肝がん治療法の有効性に関する研究							
			病期別にみた肝がん治療法の費用効果およびQOLの観点からみた有効性に関する研究				
C型肝炎ウイルスの感染による肝炎・肝硬変及び肝がん発生等の病態の解明に関する研究		B型及びC型肝炎ウイルス感染者における新たな発がん予防法の確立のための肝がん発生等の病態解明に関する研究			B型及びC型肝炎ウイルスの感染による肝がん発症の病態解明とその予防・治療法の開発に関する研究		
肝がんの発生予防に資するC型肝炎健診の効率的な実施に関する研究		新規癌胎児性抗原を利用した肝細胞癌の診断と治療					
新しい肝がん発症予防法および治療法の開発に関する研究					肝がん患者のQOL向上に関する研究		
						肝癌早期発見を目的とした分子マーカーおよび画像診断システムの開発	
						癌胎児性抗原を利用した肝がんの超早期診断法と発症予防ワクチンの開発	

④新しいウイルス肝炎治療薬の開発に向けた基礎研究の方向性に関するテーマ

平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度以降 (予定)
肝炎等の早期克服のための研究の総合的推進に関する研究							
肝炎ウイルスによる宿主細胞がん化メカニズムの解明に関する研究							
新規肝がん関連遺伝子の網羅的探索とDNAチップを用いた遺伝子の相互関連性に関する研究							
トランスジェニック・マウスを用いた肝炎がんメカニズムの解析				肝炎ウイルス感染の肝外病変の基礎的及び臨床的包括研究			
慢性C型肝炎に対する治療用ヒト型抗体の開発に関する研究						HCV感染における宿主応答の分子機構の解析と新規創薬標的の探索	
慢性肝障害合併肝臓癌の治療適応決定のための肝炎・肝硬変DNAチップの開発							
				C型肝炎の治療とキャリアからの発症予防に関する基盤研究			
				C型肝炎新規治療開発に資するプロテオーム解析を用いた治療標的分子の網羅的探索系とヒト肝細胞キメラマウスHCV感染モデルを用いた実証系の開発に関する研究			
				培養細胞で感染複製および粒子形成が可能なC型肝炎ウイルス株を利用したワクチン開発			
				肝炎等の早期克服のための総合的推進に関する総括研究			
					肝炎ウイルスの培養系を用いた新規肝炎治療法の開発		
					薬剤耐性肝炎ウイルス感染の病態解明と対策に関する研究		
						肝炎ウイルスワクチン実用化のための基礎的研究	
						ヒト肝細胞キメラマウスを用いた治療抵抗性の肝炎に関する研究	
						肝炎ウイルスワクチン実用化のための基礎的研究	
						肝炎等の早期克服のための総合的推進に関する総括研究	
						培C型肝炎ウイルスキャリア成立の分子基盤と新規治療薬開発のための基礎的研究	
						薬剤耐性肝炎ウイルス感染の病態解明と対策に関する研究	

⑤肝炎等疫学研究に関するテーマ

平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度以降 (予定)
職場における慢性肝炎の増悪要因(化学物質暴露等)及び健康管理に関する研究							
C型肝炎の自然経過および介入による影響等の評価を含む疫学的研究		B型及びC型肝炎の疫学及び健診を含む肝炎対策に関する研究			肝炎状況・長期予後の疫学に関する研究		
歯科診療におけるC型肝炎の感染リスク低減に関する研究							
				歯科診療におけるB型及びC型肝炎防止体制の確立に関する研究			
				L3分画および血流中癌細胞テロメラーゼを指標とした肝細胞癌のサーベイランスの有用性			
血液透析施設におけるC型肝炎感染事故防止体制の確立に関する研究					透析施設におけるC型肝炎院内感染の状況・予後・予防に関する研究		
肝炎等の早期克服のための研究の総合的推進に関する総括研究						ウイルス肝炎感染防止体制の確立に関する総合研究	
				肝炎等の早期克服のための研究の総合的推進に関する総括研究			
				肝炎等の早期克服のための研究の総合的推進に関する総括研究			
						肝炎の予防および治療対策に関する費用対効果分析	
						C型肝炎の状況・長期予後の疫学像の解明に関する研究	
						肝炎等の早期克服のための総合的推進に関する総括研究	
						C型肝炎ウイルス等の母子感染防止に関する研究	
本邦に於けるE型肝炎の診断・予防・疫学に関する研究						E型肝炎の感染経路・宿主域・遺伝的多様性・感染防止・診断・治療に関する研究	

133

134

肝炎ウイルス検査のお知らせ

肝臓は、

あなたが聞いてみなければ、
何も言わない。



肝臓は体の中で一番大きく、とても重要な臓器です。

肝臓では、2500億個の細胞が、日々血液の解毒や、栄養分の貯蔵などを行い、あなたの体を健康に保っています。

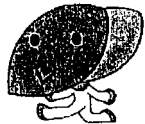
そんな肝臓のニックネームは、「沈黙の臓器」。

例えば肝炎になっても、肝臓はなかなかSOSを出しません。
あなたが「体がだるい」と気付くころには、その肝臓はかなりの重症になってしまっています。

でも大丈夫。肝炎の原因であるウイルスは、検査で分かります。*

肝炎ウイルスに感染していても、適切な健康管理・治療で、肝炎から肝硬変や肝がんに悪化するのを予防することが可能です。

*肝炎のほとんどは、肝炎ウイルスによって起きる「ウイルス性肝炎」です



早期発見、早期治療！

とにかく一度
検査を受けてみてください。

検査を受けるには？

肝炎の検査を受けるには？



【どんな検査？】

肝炎ウイルスに感染しているかどうかは、採血検査で判断します。
採血だけなので短時間で済み、また、数週間で検査結果をお知らせできます。

※感染後は3ヶ月ほどたないと、陽性にならないこともあります。

【どこで受けられるの？】

検査を受診する機会は、以下のようなものがあります。

- ・お住まいの市町村での地域検診
- ・お住まいの都道府県等の保健所での検診

具体的な実施日程や費用などは、それぞれの実施主体(下線部)によって異なりますので、別途お問い合わせください。

※肝炎についてもっと知りたい方は「一般的なQ&A」をご参照ください。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou09/index.html>

(お問い合わせ先)

●厚生労働省健康局疾病対策課 肝炎対策推進室
TEL:03-5253-1111(月~金曜日、9時半~18時)

URL:<http://www.mhlw.go.jp>

●ウイルス肝炎研究財団(病気の相談)
TEL:03-5689-8202(月~金曜日、10時~16時)

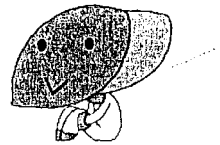
URL:<http://www.vh.fj.or.jp/> Mail: vhfj@jeans.ocn.ne.jp

(製作) 厚生労働省健康局



このパンフレットは、平成20年3月時点のものです。

肝炎ウイルスに 感染していることが 分かったら



このパンフレットは、肝炎ウイルスへの感染が分かったあなたに、あなたの治療を応援するための情報をお知らせするものです。

まずは専門医に相談してみましょう。
そこで、本格的な治療が必要かどうかを判断します。

肝炎ウイルスに感染しても、ずっと症状が出ないまま終わるものもあり、すぐには治療が必要でない場合もあります。
また治療は、症状と体の状態に合わせて選びます。

<主な治療法>

①抗ウイルス療法

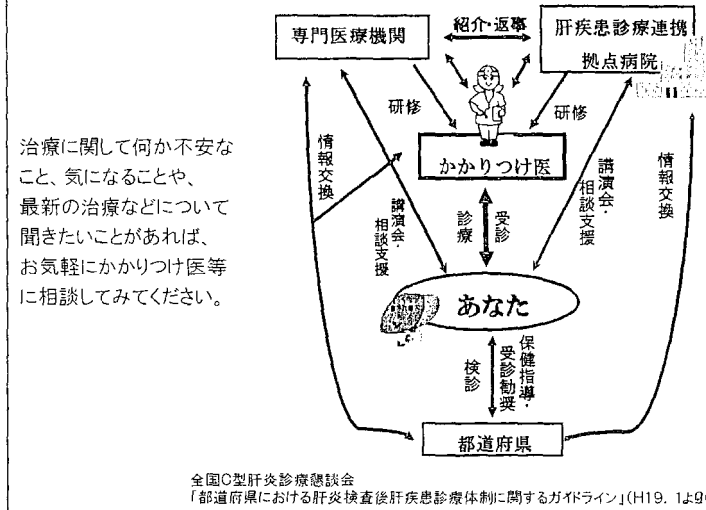
インターフェロンを使う治療と、抗ウイルス薬を使った治療があります。
1)インターフェロンは、免疫系・炎症の調節等に作用して効果を発揮する薬剤です。(詳しくは内面をご覧ください)
2)抗ウイルス薬は、肝炎ウイルスの増殖を抑える薬剤です。

②肝庇護療法

肝臓の炎症を抑え、肝細胞の破壊のスピードを抑える治療法です。

治療はどこで受ければ良いですか？

各都道府県では、順次「肝疾患診療連携拠点病院」を指定しており、ここを中心として、県内の各病院、そしてあなたのかかりつけ医と一緒に、あなたの治療を応援する体制を作っています。



治療に関して何か不安なこと、気になることや、最新の治療などについて聞きたいことがあれば、お気軽にかかりつけ医等に相談してみてください。

<インターフェロン治療について>

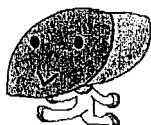
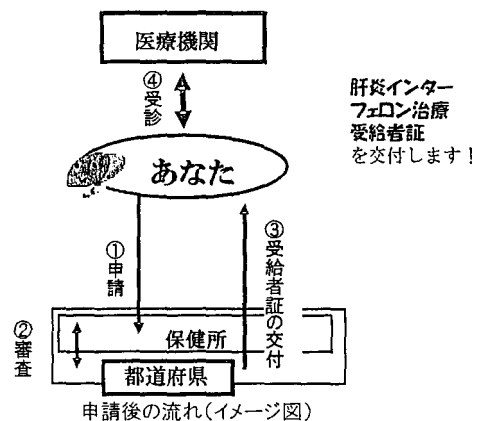
- インターフェロンは免疫系・炎症の調節等に作用して効果を発揮する薬剤で、ウイルス性肝炎を根治することができるものです。
- B型肝炎の場合 約3割
- C型肝炎の場合 約5割～9割 の人が治療効果を期待できます。
※治療効果は遺伝子型やウイルス量などによって異なります。
- 強い副作用を伴うことが多いので、かかりつけ医とよく相談してください。
主な副作用:インフルエンザ様症状(発熱、頭痛、筋肉痛など)、白血球・好中球減少、血小板減少、不眠や抑うつ、投与部位の痛み、脱毛、めまい

インターフェロン治療に対する医療費助成

国と都道府県では、肝炎の有力な治療法であるインターフェロン治療について、あなたの負担額を軽減する助成を行います。

助成の対象となるのは**B型又はC型肝炎のインターフェロン治療**です。
あなたの世帯の所得に応じて、月当たりの医療費を軽減します。
以下の書類が必要となりますので、詳しくはお近くの保健所にお問い合わせください。

- ① 肝炎インターフェロン治療受給者証交付申請書(発行:お住まいの都道府県)
- ② 医師の診断書(発行:かかりつけ医など)
- ③ あなたの氏名が記載された被保険者証等の写し(発行:各保険者)
- ④ あなたの属する世帯の全員について記載のある住民票の写し
- ⑤ 市町村民税課税年額を証明する書類 (発行:お住まいの市町村)



感染拡大の予防のために

○現在は、B型母子感染予防や献血のスクリーニングなど、感染の拡大防止対策によって、お産や献血などによる肝炎の感染はきわめてまれになっています。

○以下の常識的な注意事項を守ってれば、肝炎ウイルスが日常生活で感染することは、まずありません(くしゃみ、せき、抱擁、食べ物、飲み物、食器やコップの共用などでは感染しません)。

<主な注意事項>

- ・歯ブラシ、カミソリ、ピアスなど血液がつく可能性のあるものを他人と共用しない
- ・血液や分泌物の付着したものは、むき出しにならないようにしっかり包んで捨てるか、流水でよく洗い流す。
- ・外傷、皮膚炎、鼻血、月経血などはできるだけ自分で手当てする。
- ・他人の血液が入る可能性のある入れ墨はしない。

○肝炎ウイルスに感染しているからといって、職場や学校などで差別を受ける理由は全くありません。

※肝炎についてもっと知りたい方は「一般的なQ&A」をご参照ください。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansen/shou09/index.html>

(お問い合わせ先)

- 厚生労働省健康局疾病対策課 肝炎対策推進室
TEL:03-5253-1111(月～金曜日、9時半～18時)
URL:<http://www.mhlw.go.jp>
- ウイルス肝炎研究財団(病気の相談)
TEL:03-5689-8202(月～金曜日、10時～16時)
URL:<http://www.vhf.or.jp/> Mail: vhfj@jeans.ocn.ne.jp

(製作) 厚生労働省健康局

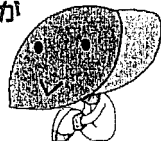


このパンフレットは、平成20年3月時点のものです。

事業者の皆さまへのお知らせ

このパンフレットは、事業者の皆さまに対し、ウイルス性肝炎の検査と治療についてのご協力をお願いするものです。

肝炎対策は、
早期発見・早期治療、
職場の理解と協力が
不可欠です。



肝臓は体の中で一番大きく、とても重要な臓器です。

肝臓では、2500億個の細胞が、日々血液の解毒や、栄養分の貯蔵などを行い、体を健康に保っています。

そんな肝臓のニックネームは、「沈黙の臓器」。

例えば肝炎になっても、肝臓はなかなかSOSを出しません。本人が「体がだるい」と気付くころには、その肝臓はかなりの重症になってしまっています。場合によっては、肝硬変や肝がんといった、より重篤な病気に進んでしまっていることも…。

だからこそ、早期発見、早期治療。

感染が分かったときは、適切な治療や定期的な検診によって、病気の進行を予防することができます。ですから、まずは、肝炎の原因である「肝炎ウイルス」がないか、検査することが重要なのです。



検査・医療についてはコチラ

肝炎ウイルス検査について



○肝炎ウイルスに感染しているかどうかは、採血検査で判断します。採血だけなので短時間で済み、また、数週間で検査結果が分かります。
※感染後は3ヶ月ほどたたないと、陽性にならないこともあります。



事業者の皆さまへのお願い

労働者に対して肝炎ウイルス検査を受けることの意義を周知するとともに、早めに検査を受診するよう呼びかけてください。

○検査を受診する機会は、以下のようなものがあります。

- ・お住まいの市町村での地域検診*
- ・お住まいの都道府県等の保健所での検診* 等

*実施日程や費用などはお住まいの都道府県又は市町村によって異なります。詳細はお問い合わせください。

○上記について、労働者へ周知するとともに、労働者が検査を希望した場合には、受診できるよう休暇を付与する等の就業上のご配慮をお願いいたします。

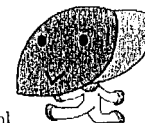


事業者の皆さまへのお願い

職場での定期検診の際に、必要に応じて、肝炎ウイルス検査を受診する機会を設けるよう、ご協力をお願いします。

なお、職場での検査実施に当たっては、検査受診の有無や結果などについて、本人の同意なく他の者が知ることのないよう、その取扱いについてプライバシー保護への十分な配慮をお願いします。

※肝炎についてもっと知りたい方は「一般的なQ&A」をご参照ください。
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou09/index.html>



ウイルス性肝炎の治療について

ウイルス性肝炎には、ずっと症状が出ないまま終わるものもあり、すぐには治療が必要でない場合もあります。そこで、まずは専門医へ相談し、本格的な治療が必要かどうかを判断してもらいます。また治療は、症状と体の状態に合わせて選びます。

(主な治療法)

①抗ウイルス療法

インターフェロンを使う治療と、抗ウイルス薬を使った治療があります。

- 1) インターフェロンは、免疫系・炎症の調節等に作用して効果を発揮する薬剤です。
- 2) 抗ウイルス薬は、肝炎ウイルスの増殖を抑える薬剤です。

②肝庇護療法

肝臓の炎症を抑え、肝細胞の破壊のスピードを抑える治療法です。



【インターフェロン治療の医療費助成】

インターフェロンは免疫系・炎症の調節等の働きを持つ薬剤で、ウイルス性肝炎を根治*することができるものです。厚生労働省と各都道府県では、平成20年度から、このインターフェロン治療について、医療費助成を行うこととしています。

- * B型肝炎の場合 約3割
- C型肝炎の場合 約5割～9割 の人が治療効果を期待できます
- ※治療効果は遺伝子型やウイルス量などによって異なります

専業者の皆さまへのお問い合わせ

インターフェロン受療促進のため、休暇の付与など就業上のご配慮をお願いします。

インターフェロン治療は、数週間の入院や、ほぼ毎週の通院が必要です。また強い副作用を伴うことが多く、例えば、高熱、全身の倦怠感、頭痛、筋肉痛、関節痛、下痢や抑うつといった症状が現れることがあります。こうしたことから、この治療や副作用で就労できない労働者が特別休暇を取れるようにするなど、就業上の特段のご配慮をお願いします。

感染拡大の予防のために

○肝炎ウイルスは、常識的な注意事項を守ってれば、日常生活で感染することは、まずあり得ません(くしゃみ、せき、抱擁、食べ物、飲み物、食器やコップの共用などでは感染しません)。

<主な注意事項>

- ・歯ブラシ、カミソリ、ピアスなど血液がつく可能性のあるものを他人と共用しない
- ・血液や分泌物の付着したものは、むき出しにならないようにしっかり包んで捨てるか、流水でよく洗い流す。
- ・外傷、皮膚炎、鼻血、月経血などはできるだけ自分で手当とする。
- ・他人の血液が入る可能性のある入れ墨はしない。



専業者の皆さまへのお問い合わせ

肝炎の患者・感染者について、差別してはいけません。

肝炎は感染症ではありますが、肝炎ウイルスが職場*で感染することは、まずあり得ません。職場の皆さまにこれを理解していただき、患者・感染者の方々が差別を受けることのないよう、ご協力をお願いします。

*他人の血液に触れることの多い、医療機関等の職場を除きます

【採用選考時の健康診断について】

採用選考時において、肝炎ウイルス検査(血液検査)を含む合理的必要性のない「健康診断」を実施することは、結果として就職差別につながるおそれがあります。

したがって、採用選考時における「健康診断」は、その必要性を慎重に検討し、それが応募者の適性と能力を判断する上で合理的かつ客観的に必要である場合を除いて実施しないようお願いします。

真に必要な場合であっても、応募者に対して検査内容とその必要性について、あらかじめ十分な説明を行ったうえで実施することが求められます。

(お問い合わせ先)

- 厚生労働省健康局疾病対策課 肝炎対策推進室
TEL:03-5253-1111(月～金曜日、9時半～18時)
URL:<http://www.mhlw.go.jp>
- ウイルス肝炎研究財団(病気の相談)
TEL:03-5689-8202(月～金曜日、10時～16時)
URL:<http://www.vhfi.or.jp/> Mail: vhfi@jeans.ocn.ne.jp

(製作) 厚生労働省健康局

このパンフレットは、平成20年3月時点のものです。



(一般向け)

ウイルス性肝炎について

— 正しく理解し、検査を受けましょう —

平成10年0月
全国C型肝炎診療懇談会

肝臓の働き

肝臓は、栄養分の生成や貯蔵、血液中の薬物や毒物などの代謝や解毒、胆汁の産生、身体の中に侵入したウイルスや細菌による感染の防御などさまざまな働きをしており、私たちが生きていくためには健康な肝臓であることがとても大切です。

ウイルス性肝炎とは？

ウイルス性肝炎は、A、B、C、D、E型などの肝炎ウイルスの感染によって起こる肝臓の病気です。A型、E型肝炎ウイルスは主に食べ物を介して感染し、B型、C型、D型肝炎ウイルスは主に血液を介して感染します。中でもB型、C型肝炎ウイルスについては、感染すると慢性の肝臓病を引き起こす原因ともなります。

肝炎になると、肝臓の細胞が壊れて、肝臓の働きが悪くなります。一部の方では、倦怠感、食欲不振、吐き気、黄疸(皮膚が黄色くなること)などの症状が出るがありますが、全く症状が出ないことも少なくありません。

肝炎ウイルスの検査

肝炎ウイルスに感染しているかどうかは、血液検査でわかります。

肝炎ウイルスに感染していることがわかったら

肝炎ウイルスのキャリア*では、全く自覚症状がなくても、肝機能検査で異常値を示すことがあります。また、検査の値が変動し、知らない間に病気が進行することがあります。このため、肝炎ウイルスのキャリアであることがわかったら、医療機関を受診して、肝臓の状態をチェックするための検査や指導を定期的を受け、健康管理に役立てるとともに、必要に応じて適切な治療を受けることをお勧めいたします。なお、お住まいの地域で肝臓の専門医の診療が受けられる医療機関については、〇ページをご参照ください。

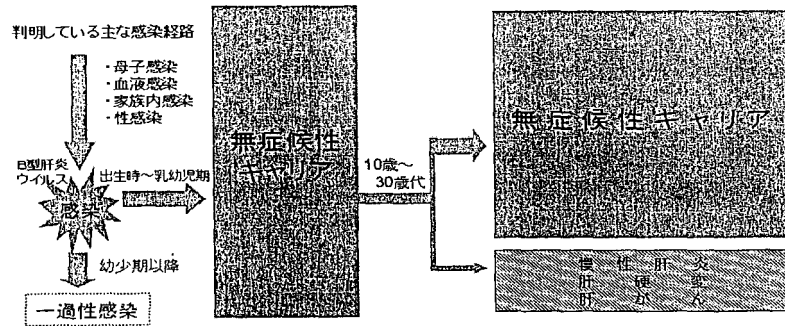
* 肝炎ウイルスのキャリア:肝臓の中に肝炎ウイルスが住みついている(持続的に感染している)状態

他人への感染を防ぐために

B型やC型肝炎ウイルスは、主に感染している人の血液が体の中に入ることによって感染しますが、ごく常識的な注意事項を守っていれば、日常生活において周囲の人への感染はほとんどありません。以下のような事項を守るように注意して下さい。

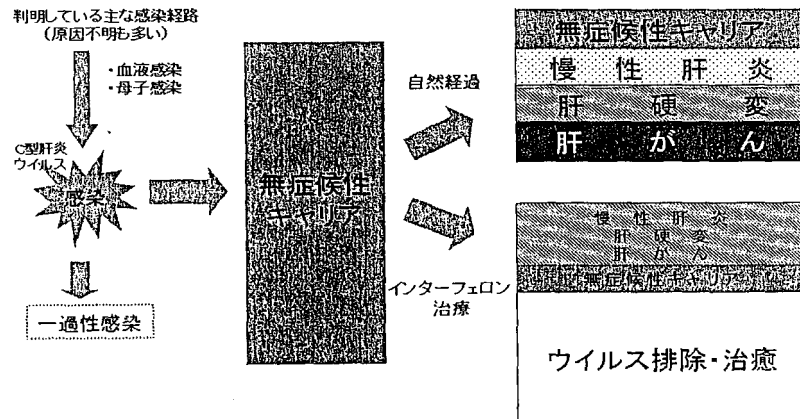
- ・ 歯ブラシ、カミソリなど血液が付く可能性のあるものを共用しない。
- ・ 血液や分泌物がついたものは、しっかりくんで捨てるか、流水でよく洗い流す。
- ・ 外傷、皮膚炎、鼻血などではできるだけ自分で手当をする。手当を受ける場合は、手当をする人は手袋を装着するなど、血液や分泌物に直接触れないように注意をする。
- ・ 口の中に傷がある場合は、乳幼児に口移しで食物を与えない。
- ・ 献血はしない。

B型肝炎の自然経過



出生時または乳幼児期にB型肝炎ウイルスに感染すると、キャリア化することがありますが、一部のタイプを除いては、これ以降の時期の感染ではキャリア化することはまれとされています。また、B型肝炎のキャリアの場合、一部(約10-20%と推測されている)は慢性肝炎、肝硬変などの肝臓病がみられますが、大部分の方は発症せずに一生を終ります。

C型肝炎の自然経過



C型肝炎ウイルスに感染した場合、B型肝炎よりもキャリア化する率は高いとされています。その後慢性肝炎になる人も多く、放置すれば肝硬変、肝がんに行進することもあります。インターフェロン製剤等の治療によって完治が期待できるようになりましたので、早期に適切な医療を受けることが大切です。

(慢性肝炎の治療ガイド 2006 日本肝臓学会編による)

B型肝炎、C型肝炎についてのより詳しい情報については、厚生労働省のホームページ (<http://www.mhlw.go.jp>) の「B型肝炎(一般的なQ&A)」、「C型肝炎(一般的なQ&A)」にありますので、ご参照下さい。

おわりに

肝炎ウイルスのキャリアであっても、定期的に肝臓の状態をチェックし、その状態に見合った健康管理に努めていれば、日常生活の制限などはほとんど必要ありません。さらに、近年、医療の進歩によって、ウイルス自体を体の中から排除する薬剤も数多く開発され、肝炎も場合によっては完治が期待できる時代となってきました。肝炎についての理解を深めるとともに、ご自分の身体の状態を知るために、これまで肝炎ウイルス検査を受けたことのない方は、必ず一度は受けるようにしましょう。

〇〇県においては、下記の保健所または医療機関において肝炎ウイルスの検査を受けることができます。

また、〇〇県において、肝臓の専門の医師による診療が受けられる医療機関は、以下のとおりです。

(医療機関向け)

肝炎ウイルスキャリア

診療の手引き

— 正しい理解のために —

平成10年〇月
全国C型肝炎診療懇談会

「HBs 抗原陽性」または「HCV 抗体陽性」の方が来院したら？

「HBs 抗原陽性」、「HCV 抗体陽性」の意味

HBs 抗原陽性ということは、「現在 HBV に感染している」ことを意味します。健診などで HBV 感染が判明した人のほとんどは、HBV キャリアと考えられます。

一方、HCV 抗体陽性の人の中には、「現在 HCV に感染している人」(HCV キャリア)と「過去に HCV に感染したが治った人」(感染既往者)とがいます。このため、HCV キャリアと感染既往者とを適切に区別するために、血液中の HCV 抗体の量(HCV 抗体価)の測定および核酸増幅検査(NAT)により HCV RNA を検出することの2つの検査法を組み合わせる方法が一般的に採用されています。

肝炎ウイルスキャリアと慢性肝炎の関係

B型でもC型でも肝炎ウイルスキャリアの肝生検組織を調べてみると、程度の差はあるものの、多くの場合肝臓に慢性的な炎症(慢性肝炎)が認められます。肝炎ウイルスキャリアは、炎症の程度(活動度)や肝臓の線維化の程度(病期)により、

(1)定期的に検査を行い、経過を見ることから始めてよい人

(2)直ちに積極的な治療を始める必要がある人

とに分けられます。肝炎ウイルスキャリアであることがわかった人を、定期的な病態把握、必要に応じた治療をせずに放置した場合、肝硬変や肝がんに進展する場合もあるので、注意が必要です。

肝炎ウイルスキャリアの初診時の検査項目

初診時及び経過観察時に、少なくとも以下の項目を検査してください。

1. ALT(GPT)
2. 血小板数
3. ALP/γ-GTP

また、可能であれば、HBV DNA または HCV RNA を測定してください。なお、これらの検査で陰性と判定された場合でも、この方法による検出感度未満の微量のウイルス遺伝子が存在する場合がありますので、経過観察は継続する必要があります。キャリア状態からの離脱(完全治癒)が起こっているか否かの判断は、専門医療機関にご相談ください。

肝炎ウイルスキャリアの経過観察の手順

初診時の理学的所見、検査値等に異常を認めない場合でも、病期が進展していたり、既に小さな肝がんができていたりする場合がありますので、注意が必要です。肝炎ウイルスキャリアが受診したら、2～3か月間検査を行いつつ経過を観察し、検査結果を紹介状にご記入の上、血小板数などの推移をみながら肝炎の活動度や病期を判定し、移行の

健康管理や治療方針を決める精査(腫瘍マーカー測定、画像診断など)のために、肝疾患専門医療機関にご相談ください。

紹介先の医療機関から「定期的な検査による経過観察」が適当との返事を得た場合は、以降の検査は2か月に1回程度とし、患者さんには、病態の把握、健康管理方針のチェック等のため、少なくとも年に1度は専門医療機関を受診するように勧めてください。

なお、初診時の理学的所見、検査値等に異常を認めた場合には、検査結果等を紹介状にご記入の上専門医療機関にご相談し、以降は専門医療機関との連携の下に治療、経過観察等を行い、定期的に病期の判定、治療方針の確認等を行ってください。

参考：厚生労働省科学研究費補助金 肝炎等克服緊急対策研究事業「B型及びC型肝炎ウイルス感染者に対する治療の標準化に関する臨床的研究」平成17年度 総括・分担研究報告書
(<http://mhlw-grants.niph.go.jp/> から閲覧できます。)

〇〇県における肝疾患診療連携拠点病院は、以下のとおりです。

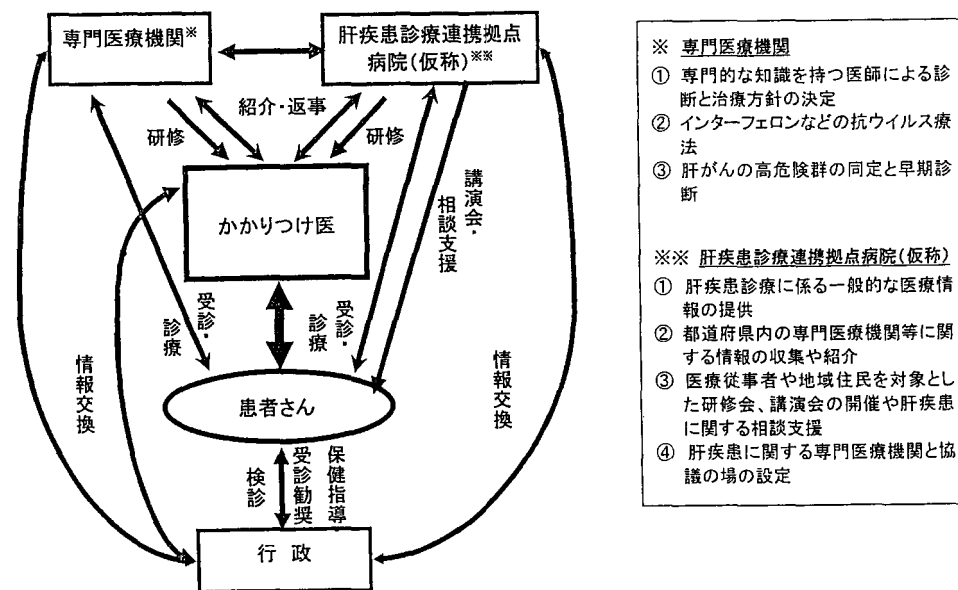
〇〇県における肝疾患に関する専門医療機関は、以下のとおりです。

行政における肝炎対策

検査で発見された肝炎患者を適切な医療に結びつけるために、厚生労働省においては、かかりつけ医と専門医療機関等との連携に基づいた地域における肝疾患診療ネットワークの構築を推進しています。

〇〇県における肝疾患診療連携拠点病院、専門医療機関については、次ページに掲載してありますので、肝疾患の診療に際してご活用ください。

肝疾患診療ネットワーク



- ※ **専門医療機関**
 - ① 専門的な知識を持つ医師による診断と治療方針の決定
 - ② インターフェロンなどの抗ウイルス療法
 - ③ 肝がんの高危険群の同定と早期診断
- ※※ **肝疾患診療連携拠点病院(仮称)**
 - ① 肝疾患診療に係る一般的な医療情報の提供
 - ② 都道府県内の専門医療機関等に関する情報の収集や紹介
 - ③ 医療従事者や地域住民を対象とした研修会、講演会の開催や肝疾患に関する相談支援
 - ④ 肝疾患に関する専門医療機関と協議の場の設定

新しい肝炎総合対策の推進



目次 >>

- ・最新情報
- ・肝炎とは？
- ・「新しい肝炎総合対策」とは？
- ・肝炎に関する資料集
- ・肝炎に関するリンク集
- ・キャラクターについて

最新情報



- 08年8月26日 「第1回全国肝炎総合対策推進懇談会の開催について」を掲載しました
- 08年6月20日 「肝炎研究7カ年戦略」を掲載しました
- 08年6月18日 「第2回肝炎治療戦略会議の開催について(変更後)」を掲載しました
- 08年6月13日 「各自自治体における肝炎対策の現状について」を掲載しました
- 08年5月22日 「肝炎治療戦略会議の開催について」を掲載しました
「肝臓週間について」を掲載しました
「各都道府県での医療費助成の広報状況」を掲載しました
- 08年5月12日 B型・C型肝炎の一般的なQ&Aを改訂しました
「分かりやすいウイルス性肝炎」を新たに掲載しました
- 08年3月31日 平成20年度からのインターフェロン治療に対する医療費助成 決定
- 08年3月31日 「新しい肝炎総合対策の推進」としてHP を改装
- 08年3月14日 「肝炎対策に係る各自自治体の取組状況について」公表

[< 過去の「最新情報」はこちら](#)

● 肝炎とは？

我が国の肝炎(ウイルス性肝炎)の持続感染者は、B型が110万人～140万人、C型が200万人～240万人存在すると推定されていますが、感染時期が明確ではないことや自覚症状がないことが多いため、適切な時期に治療を受ける機会がなく、本人が気づかないうちに肝硬変や肝がんへ移行する感染者が多く存在することが問題となっています。

(参考)

● 「新しい肝炎総合対策」とは？

厚生労働省では、従来から行ってきた総合的な対策に医療費助成を加えて、平成20年度から新たな肝炎総合対策「肝炎治療7か年計画」を実施しています。

(予算を含む全体の概要はこちらをご覧ください)

1. インターフェロン療法の促進のための環境整備

○ インターフェロン治療に対する医療費の助成

平成20年度からB型・C型肝炎のインターフェロン治療に対する医療費助成を開始しました。

(参考)

- ・【資料】「肝炎治療特別促進事業について」(41KB)
- ・【パンフレット】「肝炎ウイルス治療のお知らせ」(394KB)

2. 肝炎ウイルス検査の促進

- 保健所における肝炎ウイルス検査の受診勧奨と検査体制の整備
- 市町村及び保険者等における肝炎ウイルス検査等の実施

(参考)

- ・【パンフレット】「肝炎ウイルス検査のお知らせ」(266KB)
- ・【発表】各自自治体における肝炎対策の現状について(08年6月13日)
- ・【発表】肝炎対策に係る各自自治体の取組状況について(08年3月14日)

3. 健康管理の推進と安全・安心の肝炎治療の推進、肝硬変・肝がん患者への対応

○ 診療体制の整備の拡充

肝炎医療の均てん化(地域によってかたよりのないよう、等しく向上させること)のために、各都道府県で「肝疾患診療連携拠点病院」を選定して、医療の連携のほか、患者・キャリア・家族からの相談等に対応する「肝疾患相談センター」を設置することとしています。また国においても、こうした拠点病院を支援する「肝炎中核医療機関(仮称)」を設置します。

○ 肝硬変・肝がん患者に対する心身両面のケア、医師等に対する研修や講習会の実施

(参考)

- ・【資料】都道府県における肝炎検査後肝疾患診療体制に関するガイドライン
- ・【発表】肝炎対策に係る各自治体の取組状況について(08年3月14日)

4. 国民に対する正しい知識の普及と理解

○ 教育、職場、地域あらゆる方面への正しい知識の普及

肝炎は感染症の1つですが、常識的な注意事項を守っていれば、日常生活で感染することはまずあり得ません。そうした肝炎に関する正しい知識を皆さんに知っていただき、肝炎ウイルスの感染予防に資するとともに、患者・感染者の方がいわれのない差別を受けることのないよう、より一層の普及啓発に努めます。

(参考)パンフレット等はページ下部にまとめて掲載しています(「肝炎に関する資料集」)。

【肝臓週間について】

毎年5月第4週(本年は5月19日(月)～5月25日(日))は「肝臓週間」といい、広く皆様に肝疾患に関する正しい知識を身につけ、また、感染予防の重要性を知っていただくため、各都道府県で普及啓発を行っています。併せて、肝疾患の最新の医学的知見を集約するパネルディスカッションも開催しました。

※パネルディスカッションの詳細はこちら

<http://www.vhfj.or.jp/02.event/index.html>

5. 研究の推進

○ 肝疾患の新たな治療方法の研究開発

○ 肝疾患の治療等に関する開発・薬事承認・保険適用等の推進

多様な患者形態に合わせた抗ウイルス治療の適応検討や、その副作用対策の研究などの臨床研究を推進しています。また研究だけでなく、治療薬等の開発状況に合わせて、患者の皆さんに早く安全な薬をお届けできるよう、速やかな薬事承認・保険適用の推進も行っています。

(参考)

- ・【資料】「肝炎研究7カ年戦略」(08年6月20日)
- ・【資料】第2回肝炎治療戦略会議資料
- ・【発表】第2回肝炎治療戦略会議の開催について(変更後)(08年6月18日)
- ・【資料】第1回肝炎治療戦略会議資料
- ・【発表】肝炎治療戦略会議の開催について(08年5月22日)
- ・【資料】平成19年度肝炎等克服緊急対策研究事業採択課題一覧

●肝炎に関する資料集

上記のような肝炎総合対策のため、これまでに配布している資料等を掲載します。肝炎に関する一層の理解のため、お役立てください。

【資料】

- ・「肝炎研究7カ年戦略」(08年6月20日)
- ・都道府県における肝炎検査後肝疾患診療体制に関するガイドライン
- ・平成19年度肝炎等克服緊急対策研究事業採択課題一覧

【パンフレット】

- ・「肝炎ウイルス検査のお知らせ」(266KB)
- ・「ウイルス性肝炎の治療に関するお知らせ」(394KB)
- ・「事業者の皆さまへのお知らせ」(355KB)

【ポスター】

- ・医療費助成と検査のお知らせ(573KB)

【Q&A集】

- ・分かりやすいウイルス性肝炎 … 一般の方向け
- ・B型肝炎について(一般的なQ&A) … 医療関係者向け
- ・C型肝炎について(一般的なQ&A) … 医療関係者向け

【報道発表資料】

- ・第1回全国肝炎総合対策推進懇談会の開催について(08年8月26日)
- ・第2回肝炎治療戦略会議の開催について(変更後)(08年6月18日)
- ・各自治体における肝炎対策の現状について(08年6月13日)
- ・肝炎治療戦略会議の開催について(08年5月22日)
- ・肝炎対策に係る各自治体の取組状況について(08年3月14日)

●肝炎に関するリンク集

○各都道府県での医療費助成の広報状況(リンク一覧)

インターフェロン医療費助成の実施主体は各都道府県です。お住まいの都道府県の情報を確認の際にお役立てください。

○ウイルス肝炎に関する有用な情報を掲載しているホームページをご紹介します。

・[財団法人 ウイルス肝炎研究財団](#)

肝疾患の研究推進、診断及び予防方法の普及などを行っています。
メールでの病気の相談も受け付けています。

・[社団法人 日本肝臓学会](#)

肝臓学に関する研究の知識の共有を図り、学術の発展に寄与しています。

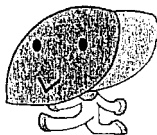
・[社団法人 日本消化器病学会](#)

消化器病に関する市民公開講座などを行っています。

[> ページの上部に戻る](#)

● キャラクターについて

右下のキャラクターは、厚生労働省の肝炎総合対策におけるマスコットです。
頭の部分は、肝臓のかたちをイメージしています。



[> ページの上部に戻る](#)

[> 「感染症情報」のページに戻る](#)

[> 「厚生労働省」ホームに戻る](#)

※ PDF ファイルの閲覧について

PDF ファイルを見るためには、Adobe Reader というソフトが必要です。
Adobe Reader は無料で配布されています([ここからダウンロード](#)できます)。

(担当:健康局 疾病対策課 肝炎対策推進室)